

## チャイルド・ウオーターズ

- 1 チャイルド・ウオーターズが厩うまやに立って  
ミルク色の馬をなでていると  
今まで出会った中で一番の  
きれいな娘がやって来ました
- 2 「チャイルド・ウオーターズに神のお慈悲を  
神さまがお救いくださいますように  
黄金きんの帯は以前はとても長かったのに  
今ではこんなに短いわ
- 3 「お腹なかにあなたの子どもがいるからよ  
お腹なかであなたの子どもが動いているわ  
緑のドレスは以前はダブダブだったのに  
今ではこんなに窮屈よ」
- 4 「きれいなエレン その子がぼくの子どもなら  
ほんとうにぼくの子どもなら  
チェシアとランカシアを与えよう  
おまえのものにするがいい
- 5 「きれいなエレン その子がぼくの子どもなら  
ほんとうにぼくの子どもなら  
チェシアとランカシアを与えよう  
だから 子どもはおまえが育ててくれ」
- 6 「チャイルド・ウオーターズ  
あなたの口でキスをしてくださいな  
北と南の  
チェシアとランカシアなど要らないわ
- 7 「チャイルド・ウオーターズ  
わたしにウイंकをしてくださいな  
北と南の  
チェシアとランカシアなど要らないわ」
- 8 「エレン 明日ぼくは出発だ  
遠い北国へ戻るのだ  
エレン この世で一番の美人を見つけ出し  
ぼくの妻にするつもり」  
「チャイルド・ウオーターズ お願いよ

わたしを小姓にしてくださいな」

9 「エレン 言った通りに

ぼくの小姓になるのなら

緑のドレスの裾を

膝上一インチまで切ってください

10 「金髪を

目の上一インチまで切ってください

ぼくの名前は誰にも明かしてはだめだ

そうすれば ぼくの小姓にしてやろう」

11 一日中 チャイルド・ウオーターズは馬で駆け

エレンは側を裸足で走りました

ウオーターズは心底から薄情もの

エレンに馬に乗れとも言いません

12 一日中 チャイルド・ウオーターズは馬で駆け

エレンはエニシダの野を裸足で走りました

ウオーターズは心底から薄情もの

エレンに靴を履けとも言いません

13 「チャイルド・ウオーターズ ゆっくり駆けて

どうしてそんなに急いで行くの

他でもない あなたの子どもが

お腹を破ってしまえそう」

14 「エレン むこうの川を見るがいい

土手を越えるほど水は一杯」

「誓って チャイルド・ウオーターズ

泳いで渡ることなどできないわ」

15 エレンは川土手までやって来ると

顎まで水に漬かりました

「天の神さまも見放されるなら

泳ぎ方を覚えるしかないわ」

16 深い水がエレンの服を浮かばせて

聖母マリアがエレンの顎を支えました

ああ チャイルド・ウオーターズは酷い男

エレンが泳ぐのを見てがっかりしました

17

エレンが何とか水から上がり

チャイルド・ウオーターズの膝もとへ寄ると

「エレン こちらから

向こうをよく見るがいい

18

「エレン 向こうの館やかたを見るがいい

城門は純金でまばゆいばかり

二十四人のきれいな貴婦人たちの中で

一番に美人がぼくの妻

19

「エレン 向こうの館やかたを見るがいい

塔は純金でまばゆいばかり

二十四人のきれいな貴婦人たちの中で

一番の美人がぼくの恋人」

20

「チャイルド・ウオーターズ 館やかたは見えるわ

城門は純金でまばゆいばかり

あなたと連れ添う奥様に

神さまの祝福がありますように

21

「チャイルド・ウオーターズ 館やかたは見えるわ

塔は純金でまばゆいばかり

あなたとあなたの恋人に

神さまの祝福がありますように」

22

二十四人の貴婦人たちは

ボール遊びをしていました

エレンは誰よりも一番の美人なのに

ウオーターズの馬を厩うまやへ連れて行く運命さだめ

23

二十四人の貴婦人たちは

チェスをしていました

エレンは誰よりも一番の美人なのに

ウオーターズの馬を草地へ連れて行く運命さだめ

24

チャイルド・ウオーターズの姉が

「弟よ おまえの小姓は

わたしの知る限り一番きれいな小姓だわ

25 「でも お腹なかはあんなに大きくて  
帯をあんなに高く巻いているわ  
チャイルド・ウオーターズ お願ねがいよ  
小姓をわたしの部屋で休ませて」

26 「沼地を走る小姓には  
膝の上に食事に乗せて  
台所のかまどの側に  
座っているのがお似合いだ  
きれいに着飾った  
貴婦人の部屋へ行くなどとんでもない」

27 人々が食事を終えて  
寝床に入った頃のこと  
「小姓よ ここへ  
ぼくの言うことをよく聞くのだ

28 「向こうの町へ下りて行き  
通りを下り  
おまえが見つけた一番の美人を  
ぼくの腕で眠らせるよう連れて来い  
きれいな足を汚さぬように  
腕うでに抱かかいて大事に運べ」

29 エレンは町へ下りて行き  
通りを下り  
エレンが見つけた一番の美人を  
ウオーターズの腕の中で眠らせるため  
きれいな足を汚さぬように  
腕うでに抱かかいて大事に運びました

30 「チャイルド・ウオーターズ お願ねがいよ  
ベッドの足元へ入れてください  
この館やかたには  
わたしが眠る部屋がありません」

31 夜は更けて  
明け方近くになりました  
「小姓よ 起きろ  
馬に麦と干し草をやる時間  
上等の黒オーツ麦を食べさせよ

ぼくをしつかり運んでもらうため

32 きれいなエレンは起き上がり

ウオーターズの馬に麦と干し草をやりました  
上等の黒オーツ麦を食べさせました  
ウオーターズをしつかり運んでもらうため

33 エレンは背中をかえば桶にもたせかけ

苦しそうに呻うめきました  
チャイルド・ウオーターズの母親が  
エレンの嘆きを聞きました

34 「チャイルド・ウオーターズ 起きなさい

おまえは呪うまやわれているのです  
厩うまやに亡霊うまやがいて

苦しそうに呻うめいています

さもなければ どこかの女が産みの苦しみ  
なんとかかわいそうなことでしょう」

35 チャイルド・ウオーターズは起き上がり

絹のシャツを身に付けました  
ミルクのように白い肌に  
もう一枚服を着込みました

36 厩うまやの戸口へやって来て

じつと耳をそばだてました  
エレンの声で  
嘆なげいているのが聞こえました

37 「わたしの赤ちゃん よしよし ねんね

かわいい赤ちゃん よしよし ねんね  
お父さまが王さまだったらしいのね  
母さんは棺ひつぎの台に寝ねているけれど」

38 「もう止めてくれ きれいなエレン

お願いだ 元気をだして  
結婚式と出産感謝式を  
これから一緒に挙げてもらおう」